

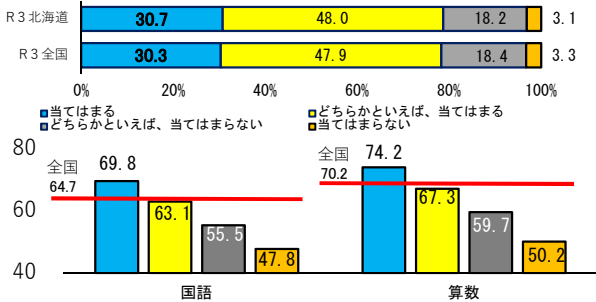
(2) 授業改善

② 全ての教科等における主体的・対話的で深い学びの実現と言語活動の充実

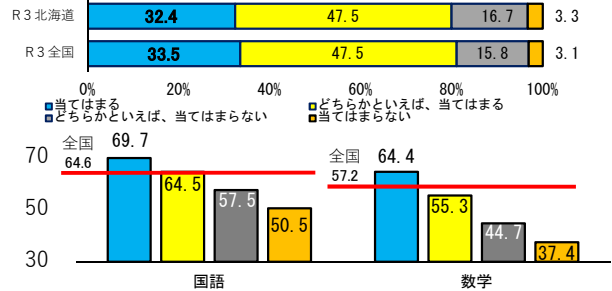
〔分析〕

「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」(児童生徒質問紙)

小学校

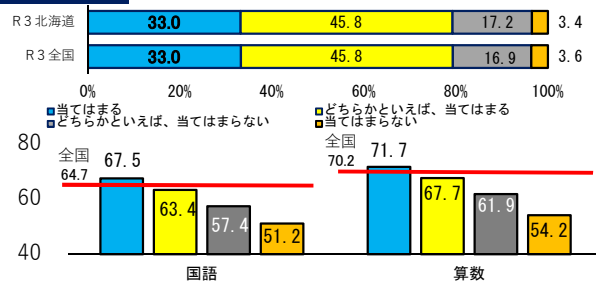


中学校

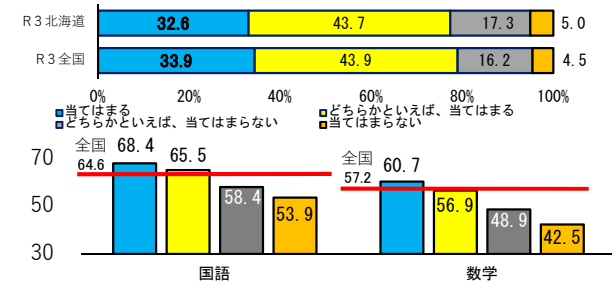


「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(児童生徒質問紙)

小学校

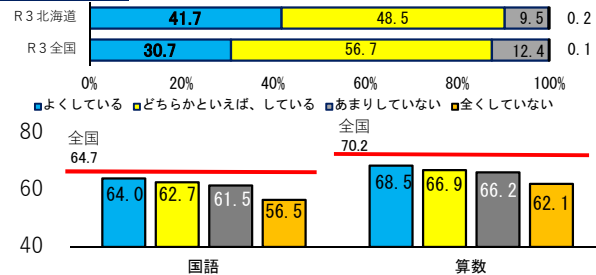


中学校

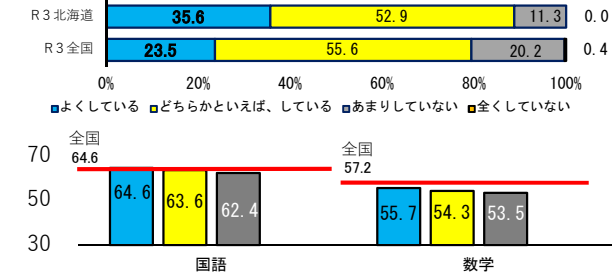


「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか」(学校質問紙)

小学校



中学校



〔分析から明らかになったこと〕

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した本道の児童生徒の割合は、増加しており、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向がある。
- 小・中学校ともに、各教科では、〔知識及び技能〕に比べ、〔思考力・判断力・表現力等〕に係る内容について、全国との差が大きい傾向がある。また、問題形式では、選択式に比べ、短答式や記述式といった何らかの記述を要する問題について、全国との差が大きい傾向がある。

〔主体的・対話的で深い学びの実現と言語活動の充実に向けて〕

- 全ての教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現と言語活動の充実
 - ・自ら問題を見だし、解決方法を探して決定し、実行し、振り返る過程を重視することが大切です。
 - ・自分の考えをもち、言葉や文章で表したり、その考えを伝え合うなどの言語活動を充実させることが大切です。
 - ・他者と協働しながら一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことを実感できる授業を工夫することが大切です。

取組のポイント

- 主体的・対話的で深い学びのイメージの共有
- 全ての教科等で育成を目指す資質・能力の定着

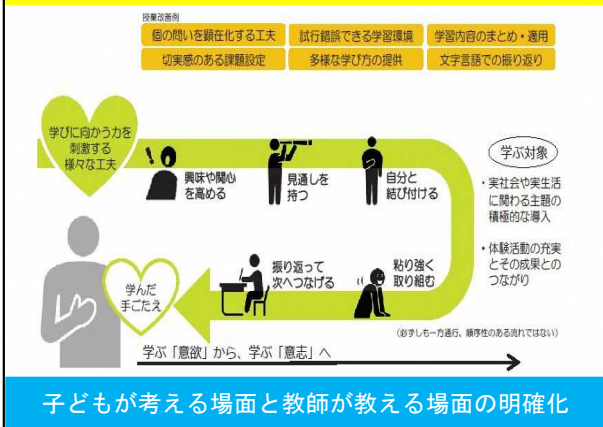
実践に向けて

主体的・対話的で深い学びの視点

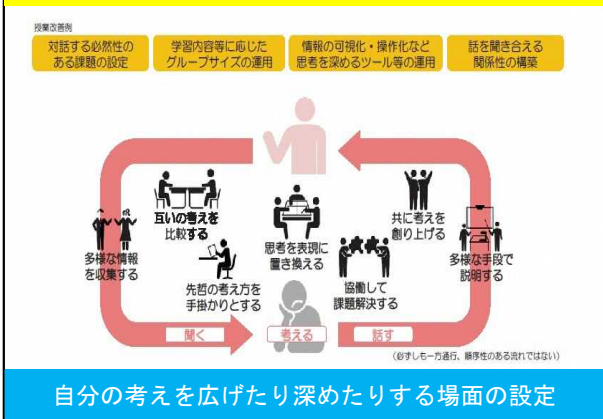


資質・能力の育成と言語活動

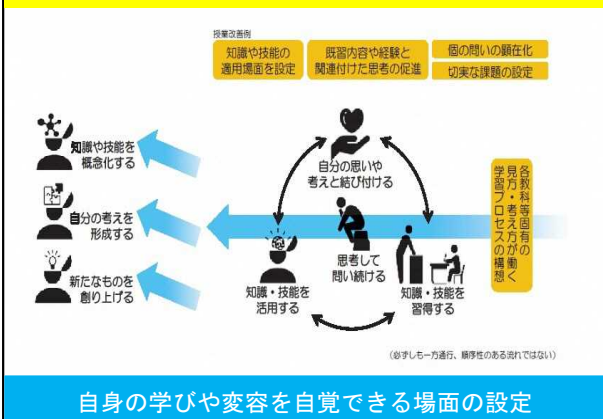
①「主体的な学び」を実現する子どものイメージ



②「対話的な学び」を実現する子どものイメージ



③「深い学び」を実現する子どものイメージ



①体験から感じ取ったことを表現する

(日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する)

②事実を正確に理解し伝達する

(身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する)

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす)
 (衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する)

④情報を分析・評価し、論述する

(学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する)
 (文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて所与の条件(字数など)の中で表現する)
 (自然現象や社会的現象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする)

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする)
 (芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する)

⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う)
 (将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる)

取組のポイント

- 「記録」「要約」「説明」「論述」といった具体的な言語活動の実施
- 児童生徒の発達の段階に配慮した全ての教科等における言語活動の充実

実践に向けて

【小学校低学年】

- 主語と述語（例えば、性質、状態、関係など）を明確にして表現する。
- 比較の視点（例えば、大きさ、色、形、位置など）を明確にして表現する。
- 判断と理由の関係を明確にして表現する。
- 時系列（例えば、まず、次に、そして、など）で表現できる。
- 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。
- 書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。

【小学校中学年】

- 判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。
- 条件文（例えば、「もし、○○○ならば、△△△である」）で表現する。
- 科学用語や概念を用いて表現する。
- 互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会者や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。
- 書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。

【小学校高学年】

- 演繹法や帰納法などの論理を用いて表現する。
- 規則性やきまりなどを用いて表現する。
- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。
- 書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
- 本や文章などを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

【中学校全学年】

- 帰納・類推、演繹などの推論を用いて、説明し伝え合う活動を行う。
- 日常生活の中で気付いた問題について、自分の意見をまとめ説得力ある発表をする。
- 社会生活の中から話題を決め、それぞれの視点や考えを明らかにし、資料などを活用して話し合う。
- グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話し合いを行う。
- 新聞、読み物、統計その他の資料を基に、根拠に基づいて考えをまとめ報告書を作成する。
- 実験や観察の結果、調査結果などを整理し重点化し、相手に分かりやすく、ポスターやプレゼンテーション資料などに表現する。
- テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的にとらえたりするなど、知識や考えを深める。